



## 11月「うつくしま地球温暖化防止活動推進員の会」(県北地区)活動報告

11月20日13時から16時までアオウゼで令和4年度6回目の会合が開かれました。今年度継続しているカルタ読み札の検討と修正、事前に提出された新たな読み札の追加などを、既に作成されている気候変動カルタやエコカルタを参考にしながら、文言の内容や長さ、重複について検討しました。現在の状況を踏まえた新たなカルタづくりに取り組み、次年度にはこのカルタを活用して活動できる体制を検討しています。

## 12月「うつくしま地球温暖化防止活動推進員の会」(県北地区)活動報告

12月18日10時から12時まで令和4年度7回目の会合と第3回目の研修会を実施しました。研修会ではうつくしま地球温暖化防止活動推進員の基本的な情報となる「福島県環境基本計画、福島県総合計画」について生活環境総務課の主任主査鈴木聡さんに、そして現在福島県の重要な課題になっている「福島県内のごみ排出量の現状と取組みや家庭の実践例について」一般廃棄物課の主任主査八木橋大祐さんに講演をしていただきました。また、講演終了後、うつくしま地球温暖化防止活動推進員会員の活動について報告をし合い、活動の共有を図りました。この間の主な活動を以下に報告いたします。

### 1) 2022 ふくしま環境フェスタ

「環境共生都市・ふくしま市」をメインテーマに10月2日福島市こむこむ館で開催され、「うつくしま地球温暖化防止活動推進センター」ブースで「持続可能な開発目標(SDGs)」や「エシカル消費」、「食品ロス削減」などのパネルを展示して地球温暖化防止活動について来場者と一緒



講演をする八木橋さん(左)と鈴木さん(右)



熱心に講演を聞く推進員のメンバー

に考える活動をしました。食品ロスについては「手前どり」や「ローリングストック」などについて話しました。子供向けエコカルタ取りは子供たち大変人気がありました。楽しく学ぶことが大切で、現在実施しているカルタづくりの重要性を再確認しました。

### 2) REIF ふくしま×ふくしまゼロカーボンDAY

10月13日から15日にかけて郡山市のビックパレットふくしまで開催されました。6500人が参加する大きなイベントでしたが、15日を中心に福島市環境課のお手伝いをする形で参加しま

した。REIF と一緒になったことで再生可能エネルギーの海外企業が出展していて、最先端の技術情報を得ることができました。

### 第3回研修会報告

1) 「福島県環境基本計画，福島県総合計画の紹介」 環境総務課 主任主査 鈴木 聡さん

福島県総合計画は、令和4年から令和12年までのあらゆる政策を網羅した県の行政運営上の最上位計画であり、県の目指す方向性や施策を示す県づくりの基本的な指針であるとする位置づけから始まり、基本目標を「やさしさ、すこやかさ、おいしさあふれるふくしまを共に創り、つなぐ」とし、SDGsの理念を踏まえて推進されることが示されました。特に、施策を「ひと」分野、「くらし」分野、「しごと」分野に区分し、それぞれの項目に数値目標やSDGs理念が設定されて、PDCAサイクルで確認ができるようになっていることが紹介されました。また、温暖化防止活動と関連する福島県環境基本計画は、福島県総合計画の部門別計画に位置付けられている事や目標が一体化していることなど具体的事例を基に分かり易く説明していただきました。

この第5次福島県環境基本計画では基本目標は総合計画と一緒にあるが、図1に示すような課題を7つの基本姿勢として表現し、集中して

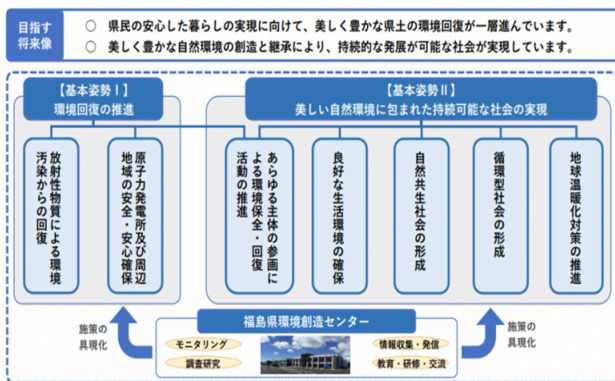


図1 福島県環境基本計画基本姿勢

取り組むことが紹介されました。未来志向の環境施策の推進や一人一人が生き生きと輝く社会の実現、安全で安心して暮らせる社会の実現など、立派な施策が講じられている一方、重要なのは一人一人が自分事として捉え、実行することであることが指摘されました。普段耳にすることがない総合計画や基本計画を理解する良い機会となりました。

2) 「福島県内のごみ排出量の現状と取り組みや家

庭の実践例について」

一般廃棄物課 主任主査 八木橋大祐さん

八木橋さんのご講演はショックなデータの紹介から始められました。ニュースで時々福島県はごみの排出量が多いと報道されることがありましたが、原発事故後、堆肥としていた落ち葉や草木など、循環できなくなるとして出するために多くなっていると思っておりましたが、図2に示すように全国的には減少しているのに、

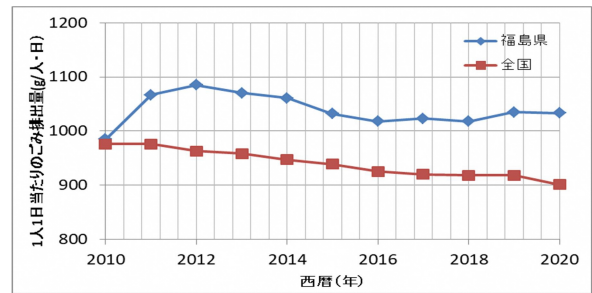


図2 全国と福島県のごみ排出量の経年変化

福島県は事故後2016年ごろまで減少しているものの、再度増加傾向が見られます。また、日常的にはスーパーなどでリサイクルが実施され、

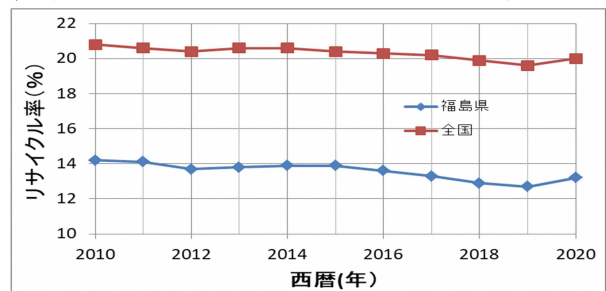


図3 全国と福島県のリサイクル率の経年変化

多くリサイクルされていると思いましたが、これも図3に示すように、全国で46位と排出量と同じ順位になっています。環境先進県福島がこれでいいのかと思いつつ講演を聞きました。

こうした状況を受け、福島県では環境アプリの推進やアイデアコンテスト、食べ残しゼロ協力店の認証数拡大など、県民のアイデアを共有しながら取り組んでいることが紹介されました。特に、ごみ減量では水切りが重要で、食品残渣の水切りや、剪定材の乾燥化などちょっとした工夫で排出量を相当減少させることが紹介されました。飢餓状態の人口は世界的で8億2千万人と言われ世界に人口で割れば9人に一人が飢餓状態の中、食品ロスの削減は、世界的課題解決の一つでもあり、日々自分事として取り組んでいく必要性を痛感させられた講演でした。